

令和5年度 清岳園いっぽ スタッフによる事業所評価アンケート

公表日：令和5年 3月25日

スタッフ5名実施

チェック項目		はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点など	課題や改善すべき点を踏ま えた改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	① 利用定員に応じた、 支援スペースが確保 されているか	5名	0名	0名	全利用児童が個別で過ごせる環 境を提供している。また共有ス ペースを含め、小グループでの 活動も提供できる十分なスペ ースを確保できている。	今後もスペースを有効活用し、 お子様一人ひとりに合わせた環 境へと再構造化しながら調節し ていく必要がある。また引き続 き、安全面にも配慮した環境に も努めていく。
	② スタッフの配置数は 適切であるか	5名	0名	0名	指定の学校への送迎（朝）サー ビスの提供と、お子様の発達に 応じ、基準以上の人員を配置し ている。工夫としては、1対1 での支援を要する利用児童の翌 月の利用予定と照らし合わせ、 当日に合わせて人員を調整しつ つ適切な人員の確保に努めてい る。	<現在の人員配置状況> 管理者/心理指導担当職員 1名 児発管 1名 保育士 2名 児童指導員2名 運転員1名 計7名（全スタッフ常勤）
	③ 事業所の設備等につ いて、バリアフリー および構造化の配慮 が適切になされてい るか （事業所周辺）	5名	0名	0名	手擦りの設置および段差がない 環境と、多目的トイレを整備し ている。ASD/ADHD お子様 が過半数以上利用されているこ ともあり、視覚的に解りやすい よう構造化された環境にバリア フリー化する事がメインとなっ ている。現在、車椅子を利用さ れている、また医療的にケアが 必要なお子様は利用されていな い状況。	引き続き安全を第一に「使いや すさ」「分かりやすさ」がある環 境作りに努めていく。 また事業所内の環境だけではなく、 事業所玄関から送迎車両ま での安全点検など、所外周辺の 環境も随時確認し改善していく 必要がある。
業務改善	④ 業務改善を進めるた め、現場のスタッフ が参画しているか	4名	1名	0名	各業務内容に応じ、業務マニ ュアルを作成している。随時、業 務改善に応じた支援の変更・ 追加に応じ、全スタッフの意見 や考えを基に修正している。	引き続き、全スタッフが意見が だしやすくなる雰囲気作り、ま た具体的なテーマに絞ること で、改善策を考えやすくなる状 況に努めていく必要がある。 また意見については肯定的に受 け止め、個々のスタッフの自信 に繋がるよう配慮していく。
	⑤ 保護者等向け評価表 を活用する等によ り、アンケート調査 を実施して保護者等 の意向等を把握し、 業務改善につなげ ているか	5名	0名	0名	率直なご意見を汲み取れるよう ご家族による事業所評価アンケ ートについて無記名で実施し、 意向を汲み取っている。この結 果を真摯に受け止め、事業報告 及び次年度の事業計画の作成に 努めている。	引き続き、集計結果を直接ご家 族へ配付し、ホームページでも 閲覧できる状況を作っていく。
	⑥ 第三者による外部評 価を行い、評価結果 を業務改善につな げているか	4名	1名	0名	相談支援専門のモニタリングを 外部評価として真摯に受け止め 業務・支援改善へと繋げている。 また『個人面談』にも同席し てもらい外部評価を得られ やすいよう工夫している。また個 別支援計画書や評価書を共有し ている。	引き続き、相談支援専門員との 連携に努め、外部評価として活 用していく。
	⑦ スタッフの資質向上 を図るために、外 部・内部研修の機 会を確保しているか	5名	0名	0名	現在、基準以上の人員配置が必 要であり、頻繁には外部研修に 派遣することは難しいのが現実 である。そのため、内部研修や 当事業所主催の地域での研修会 を開催し、専門知識が得られる よう努めている。 ※法人契約で、各領域の研修を オンラインで受講できる機会を 設けている。	オンライン研修を受講できる機 会や外部研修等の情報を掲示し 参加希望を確認している。 また当事業所主催で法人内の事 業所スタッフが集り、事例検討/ 情報交換会を開催しスタッフの スキルアップの機会を設けてい る。
適切	⑧ アセスメントを適切 に行い、子どもと保 護者のニーズや課題 を客観的に分析した	5名	0名	0名	記述には5W1hを意識し、ど ういった経緯で？何のための？ 具体的な支援内容？が、第三者 に伝わる内容の評価書および個 別支援計画書を作成できるよう 努めている。また状況が伝わり やすいよう写真を添付するなど、	引き続き、フォローできる仕組 みを作りながら、将来を見据え 経験が浅いスタッフも計画書作 成に参画してもらい、人材育成 に努めていく。

な支援の提供		上で、個別支援計画書を作成しているか				より具体的に支援内容が伝わるよう工夫している。	
	⑨	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメント表やツールを活用しているか	5名	0名	0名	実証されているアセスメント表を用い、障がい特性を軸にし、直接観察することで利用児童一人ひとりを正しく知れるよう努めている。	フォーマルアセスメントツールである PEP-3 導入の実施を目標にし、スタッフ個々のスキルアップを目指していく。またその場限りの主観的な分析とならないよう、フレームワークを活用していく。
	⑩	活動プログラムの立案を、スタッフ間で話し合い行っているか	4名	1名	0名	終礼時や会議等で、課題や修正が必要なプログラムを浮き彫りにし、改善できるようスタッフ間で意見を出し合い方向性を示している。	引き続き、経験が浅いスタッフも意見がしやすい雰囲気作りにも努め、より良いアイデアや工夫が生まれるよう努めていく必要がある。
適切な支援の提供	⑪	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	5名	0名	0名	利用児童の障害特性上、同一パターンでの活動プログラムを実施していく事で、変更に対処できなくなる状況になることが予測され、外出先や内容は1パターンではなく、数種類の内容を毎週不定期に実施することに心がけている。また余暇プログラムについては、全利用児童が自己選択・決定できる状況を作っている。予定の変更・中止・追加などの対処を学べる機会を提供できるよう努めている。	冬季の積雪状況や悪天候時に、外出活動がマンネリ化する傾向にあり、ソリ遊びの活動を取り入れ、冬場に体力作りできる状況を設定している。
	⑫	放課後・1日・長期休暇中を区別した、利用スタイルや支援内容に調節しているか	4名	1名	0名	引き続き、地域資源（店/公共施設/公共交通機関など）を活用し、コミュニケーション支援・学習支援・日常生活のスキルが実践的に経験できる機会を設けていく。	公共交通機関の利用や、地域の社会資源を活用した日常生活に必要なスキルが習得できる活動の幅を広げていく。また長期休業期間中のプログラムの創意工夫に努めていく。
	⑬	子どもの状況に応じた、活動プログラムを立案し、個別支援計画書へ反映させているか	5名	0名	0名	利用児童のニーズをアセスメントし、QOLの向上と、芽生えとされる行動が「一人で行える」に繋がる支援目標を設定した個別支援計画書の作成に努めている。	スタッフ個々の力量で計画書の質が落ちないように、引き続きフォローできる仕組みを作っていく。
	⑭	支援開始前あるいは終了後にスタッフ間で打合せし、当日および翌日の支援内容や役割分担について確認し合っているか	5名	0名	0名	現在6校の下校時間に合わせ、人員配置や、朝の学校送迎サービスを実施している事もあり、スタッフ間の勤務時間にはばらつきがある。全スタッフでの打ち合わせ等については、支援終了後の終礼がメインになっているが、丁寧な週案の作成と、日誌やケア用紙を用いての引継ぎに徹底している。	引き続き、伝達ミスがないよう書面化することに努めていく。スタッフ間で個別に引継ぎが必要な場合には、付箋なども活用している。引き続き、1週間分の利用児童の下校時間/利用や送迎の有無/その他特記事項に応じた、当日のスタッフ個々の役割分担を明確にし働きやすい状況を作る。
	⑮	日々の支援に関して正しく記録をすることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	4名	1名	0名	業務日誌へは詳細な内容が記述されるよう努めている。業務中の利用児童の状況を確実に日誌（ケース）へ反映できるよう、ケア用紙を活用している。また単純に状況だけを記録するのではなく、障がい特性がどのように影響しているのか？どういった行動の機能があるのか？また明日からはどの様に対応するのか？など、今後の方向性も記述することに努めている。計画書の支援に対しては、個別にチェックリストを作成し、評価及び状況を利用毎に記述している。	引き続き、経験が浅いスタッフも支援の検証・改善につながる方法や思考を上司と一緒に導くことを経験してもらえよう助言に努めていく必要がある。
	⑯	定期的にモニタリングを行い、支援内容の改善の必要性を判断しているか	5名	0名	0名	利用毎のチェックリストでのモニタリングおよびケース検討会議（随時）を含め、課題に対して迅速に対応し修正できるようスタッフ間で意識し日誌へ記述し、翌日からの対策等を示すよう努めている。	

					相談支援専門員の評価も活用している。		
	⑰	相談支援専門員との連携および協力体制は適切であるか	5名	0名	0名	相談支援専門員とは密に連絡を取り合いながら、連携する事に努めている。	引き続き、必要に応じて、ご家族との個別面談時にも相談支援専門員に同席してもらい、評価書/個別支援計画書の説明を実施していく。
関係機関や保護者との連携	⑱	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか	5名	0名	0名	前月に各学校に合わせた年間計画の情報を組み込んだ利用予定表をご家族と共有し、休業日・下校時間の変更等に合わせた人員や勤務時間へと調節している。送迎時間の変更や臨時休業をとらせていただく場合には、手紙や連絡帳等で事前に説明できるように努めている。	
	⑲	就学前に利用していた児童発達支援事業所等（保育所・幼稚園・認定こども園）との間で情報共有と相互理解に努めているか	5名	0名	0名	児童発達支援事業所や在学中の学校、以前利用していたサービス先など、新規利用児童の受け入れに合わせて、移行支援会議などを通じて、事前アセスメントの機会を設けている。	令和6年度新規に利用予定の児童が利用している児童発達支援事業所や入学予定の学校との移行支援会議を実施予定。
	⑳	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか	5名	0名	0名	学校卒業後の進路先へは、当事業所で提供した支援やアセスメントした情報を保護者に同意を得て、個別支援計画書・評価書・個人プロフィール表・特性シートを通じて情報提供している。また移行支援会議を含め、随時、情報交換会や見学を受け入れ、利用児童に利益ある移行支援に努めている。	利用児童と進路先に利益ある情報提供に努め、丁寧な移行支援に努めていく。
	㉑	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	3名	2名	0名	地元で児童発達支援センターや発達障害者支援センターがないこともあり、密な連携などは難しいのが現状である。当事業所独自の勉強会や研修会を開催することに努めている。	
	㉒	自立支援協議会等へ積極的に参加しているか	5名	0名	0名	管理者が地元の自立支援協議会の委員として就任している。	
	㉓	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の現状と課題について共通理解ができているか	5名	0名	0名	日々、連絡帳や送迎時に直接情報交換する事に努めているが、この場面のみでは伝達不足であるため、具体的な支援状況が説明できるよう、丁寧な評価書を作成することに努めている。	引き続き、同じ価値観を持ち支援できるよう、ご家族との情報交換に徹底していく。
	㉔	保護者への専門的助言およびペアレントトレーニングを意識し家族支援を実施しているか	3名	2名	0名	年1回程度であるが、当事業所主催のASDの基礎研修を継続して開催し、保護者・行政・関係機関が参加できる研修会を通じて家族支援ができるよう努めている。	新型コロナウイルスの感染防止を考慮し、地域研修会の開催は中止としていたが、状況をみて開催していく意向である。引き続き、希望に応じて、事業所内相談支援を実施し、積極的に家族支援を実施していくことに努めていく必要がある。ご家族からの相談に対しては、共感し想いを汲み取りながら対応しているが、専門的助言については、自分自身を振り返るとスキルに差があると考え。

保護者への説明責任等	⑳	支援内容や評価について丁寧な説明がなされているか	5名	0名	0名	評価書については、個別支援計画書と照らし合わせた具体的な現状と課題を記述し、今後の方向性を示した内容で保護者へ同意を得ることが出来ている。	引き続き、支援状況が具体的に伝わる書類の作成に努めていく。
	㉑	子どもや保護者からの苦情について、改善策を説明し、迅速かつ適切に対応しているか	5名	0名	0名	ご家族による事業所評価アンケートを継続して依頼し、無記名で実施することで、本来のニーズを汲み取り改善できる様、努める姿勢である。	引き続き、お子様やご家族から、ご意見があった場合は、当日検討し改善策や、代替え案などを示せるようにしていく。
	㉒	子どもの様子や状況が的確に伝えられるよう、「いつ・どこで・誰が・何を・なぜ・どの程度・結果どうなったか」を意識し、連絡帳を記述できているか	3名	2名	0名	スタッフ間でスキルアップできるよう、連絡帳の記入や伝達方法についての内部研修を開催した。	日々、連絡帳を用いてご家族とやりとりしているが、伝達内容が不十分であったり、表現が乏しくなっている場合がある為、今後とも課題として認識し、スタッフ間でスキルアップしていく必要がある。
	㉓	個人情報に十分注意しているか	5名	0名	0名	個人情報の取得や提供についての承諾書を契約時に交わしている。法人内で個人情報についての取り扱いの研修会も実施している。	引き続き、守秘義務および個人情報保護法について各スタッフへ周知させ、遵守するよう指導していく。 お子様の安全を第一に、当事業所は館内外の防犯上、防犯カメラを設置しており、必要に応じて防犯カメラで撮影した映像等を警察等に提供する場合もあることをご家族へ再周知していく。(集計結果で説明)
	㉔	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達(コミュニケーション支援)を工夫し実施しているか	5名	0名	0名	PECSコミュニケーションブックを活用し、意思決定支援に繋がる、自己選択・決定の仕組みを構築し提供している。余暇活動については、全利用児童が選択できる仕組みを設定している。また外出時に昼食についても、事前に利用児童一人ひとりに合わせ、メニューを選択してもらっている。	引き続き、お子様一人ひとりに合わせた「分かる/伝える」状況を設定し「伝えられる」喜びを経験してもらえるよう努めていく。また口頭での説明のみでは、伝達ミスなどにも繋がるため、書面でもやりとりできるよう工夫している。
	㉕	非常時等の事業所側の受け入れ体制や対応が保護者へ説明しているか	5名	0名	0名	年度末に翌年度の事業計画ダイジェストを配付し、事業所側の体制や対応について、各ケースに応じて文章化して示している。 ①「リスクについての同意書」を作成し、ご家族へ同意を得る。 ②新型コロナウイルスの感染防止や対策についての、法人の指針を随時ご家族へ発信し、事前にご協力を依頼できるよう努める。	車両乗降時の利用児童の把握方法等についてのマニュアルを作成する。お子様の乗降についてチェック体制を強化し、確実に所在が確認できる仕組みを構築する。 令和5年6月に全車両に安全装置を設置済み。⇒ご家族へも説明済み
非常時等の対応	㉖	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定しスタッフ間で周知しているか	5名	0名	0名	事業計画に各対応マニュアルをのせ、スタッフへ配付している。また防災訓練時に、マニュアルの確認を実施している。 ※7機の防犯カメラを設置している。 ※ALSOKと契約している。	年6回防災訓練を実施している。(火災/地震/怪我・事故/不審者対応/崖崩れ) 感染症対策委員会を設置し、年4回の定期会議、感染症が流行する時期等を勘案して必要時に臨時会議を開催。(4月/7月/11月(避難訓練時/実践研修)/1月に実施) 令和6年度より義務化される『BCP/安全計画』を策定。
	㉗	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練を行っているか	5名	0名	0名	年6回の防災訓練を実施している。内容としては火災/地震/崖崩れ/不審者/事故・怪我などを想定し、総合避難訓練では消火器操作/通報訓練を実施、災害時に合わせた飲料水/常備薬	令和6年度より義務化される『BCP/安全計画』を策定。事業所内外の設備の安全点検、スタッフへの訓練と研修を実行していく。

					等を確認と確保に徹底している。	
③③	虐待を防止するため、委員会の設立や研修会開催等、適切な対応をしているか	5名	0名	0名	責任者および虐待防止委員会を設置し、内部研修を開催しながら虐待と向き合い防止することに努めている。	人権/権利擁護、虐待防止、身体拘束適正化委員会を設置。委員長（管理者）・人権/権利擁護、虐待防止、身体拘束適正化マネージャー（班長）・内部研修開催・事例検討担当者等で構成している。 人権及び虐待・身体拘束適正化については、委員会を年3回、研修会を年2回実施している。
③④	食物アレルギーや服薬内容等を把握し、医師の指示書や処方箋に基づく対応がされているか	5名	0名	0名	お子様一人ひとりのアレルギーや服薬情報を整理した個別緊急カードを作成し、事業所および送迎車内に完備している。	引き続き、ご家族へは健康保険書の変更時をふくめ、最新の処方箋のコピーも事業所へ持参してもらい緊急時に迅速に対応できる体制を維持していく。
③⑤	スタッフ間でインシデント・アクシデント報告書を作成し、今後同様のケースにならないよう迅速に改善できる策を立案し実行しているか	5名	0名	0名	各ケースに応じて、インシデント・アクシデント報告書が提出され、改善策が示されている。	各報告書については、今後事故やケガに繋がらないよう、また同様の事案が発生しない様、改善策を考えるための書類作成として、各スタッフがポジティブに捉え、積極的に報告しやすいよう状況を作っていく。

＜その他 今まで以上の事業所になるためのアイデアを聞かせてください＞

- 事業所内の壁について、増設時に設置したものは、PPシートなどの硬い物を剥がす際に、壁が割れてしまう状況が確認される。費用はかかるが、範囲を限定しエリアA前方にあるパネルを各エリアに設置すれば支障がでにくいと感じる。
- 利用児童が利用できるパソコン/タブレットを準備し、個別の作業や好子の選択、余暇活動などに利用できるようにしたい。
- 将来のスキルや余暇活動の幅を広げる為、パソコンやインターネットが利用できる専用エリアを設けたい。
- 法人内の事業所を利用児童と一緒にスタッフも見学したい。